

図書紹介

理論 文化・宗教担当講師 江島正子

相良敦子著 文庫版『お母さんの「発見」』 文春文庫最新刊 2013年 265頁



本書は、文藝春秋の単行本として2000年に出版された内容に、「第4部(補) 母親が語るわが子のその後の生き方」が加筆され、文庫本として今夏に発行されました。1912年わが国にモンテッソーリ教育が初めて紹介され、1960年代にモンテッソーリ教育のリバイバルが起こり、現在、半世紀が経過しつつあります。モンテッソーリ教育における日本への導入の、この

ような歴史を背景に、文庫版として再登場しました。

文庫本では、単行本のとき子育て真っ最中だった3人のお母さん方がいま大学生とか社会人に成長した子どものことを報告していますが、そこでモンテッソーリが描いた「ひとのイメージ」が明確化されます。

Bianca Mattern, Montessori fuer Senioren Teil 1.. Verlag Moderne Lernen - Dortmund. 2001. Teil 2. 2008.



本書はドイツ語です。本のタイトルを日本語にすると、『高齢者のためのモンテッソーリ』です。内容は、モンテッソーリ・メソッドが、南ドイツのパッサウ(Pasau)市郊外にあるボンファチウス老人ホームで実践された記録です。脳卒中、脳梗塞、パーキンソン病、認知症などの症状をもつ施設利用者が、モンテッソーリ教具をと

おして、失った機能やそれによる自信を取り戻すのを見せられます。

平成26年度入講生募集のお知らせ

募集定員：30名
出願期間：平成25年12月2日(月)～平成26年1月15日(水)
出願書類：願書・受験票(所定用紙・写真添付)
最終学校の成績証明書および卒業証明書又は、卒業見込証明書
選考料(13,000円)の振込み金受領書のコピー
選考日程：平成26年1月19日(日)午後1時集合
場所：富坂キリスト教センター
内容：小論文・面接

*詳細・入講案内は事務局までお問い合わせください。
Tel. 03-5805-6786 Fax. 03-5805-6787
E-mail: info@montessori.or.jp

平成24年度研究所活動報告

1. 会員の動向(平成25年3月31日現在)
 - ①新規入会 正会員 個人 2名 賛助会員 なし
 - ②退会会員 正会員 個人 なし 賛助会員 なし
 - ③会員数 正会員 個人 19名 賛助会員 1団体(2口)
2. 活動報告
 - ①教員養成事業 平成24年4月 第7期生 15名入講 平成25年3月 第6期生 19名修了
 - ②指導者支援事業 平成24年8月 第4回実践実技研修会開催、於 モンテッソーリ白金子 供の家 「日常生活の活動」 参加者33名
 - ③ホームページ等による広報事業 「モンテッソーリ教育」(学会誌)第44号に広告掲載、平成24年11月に「T.I.M.E」第5号発行。ウェブサイトを通し、広く一般に東京モンテッソーリ教育研究所及び、付属教員養成コースの活動を発信し、モンテッソーリ教育の普及活動を行った。 <http://montessori.or.jp/>

以上 事務局長 青木和美

東京モンテッソーリ教育研究所 平成24年度収支決算

収入の部		単位:円
入会金		
	個人	40,000
	団体	0
会費収入		
	個人	190,000
	団体	10,000
事業収入		
	教員養成事業	9,862,460
	指導者支援事業	99,000
	広報事業	0
雑収入		
	受取利息	66,714
	雑収入	1,150
経常収入合計		10,269,324

支出の部		単位:円
事業費		
	教員養成事業	8,541,660
	指導者支援事業	154,466
	広報事業	136,790
管理費		
	人件費	1,684,743
	会議費	40,000
	旅費交通費	18,280
	通信運搬費	140,916
	消耗什器備品費	0
	消耗品費	57,671
	修繕費	750
	光熱水費	36,486
	賃借料	197,970
	租税公課	838,600
	雑費	164,330
経常支出合計		12,012,662

当期収支差額	△ 1,743,338
前期繰越収支差額	24,692,854
次期繰越収支差額	22,949,516

平成25年4月12日 上記の通り相違ありません。 事務局長：青木和美

編集後記

時は流れ、時代は進化します。モンテッソーリ教育も進化しています。東京コースも、その源は上智コースから出発し、43年の月日が経過しました。今年度から「戸塚ルーテル」の分校がスタートしており、モンテッソーリ教育は進化の流れのなかで大きな特徴を見せます。それはモンテッソーリ教育が「ゆりかごから高齢者まで」という人間の一生にかかわる内容を含むことです。(江島正子)

特定非営利活動法人東京モンテッソーリ教育研究所

T. I. M. E.

Tokyo Institute of Montessori Education

<http://montessori.or.jp/>

Chair Person Tamako Amano General Secretary Kazumi Aoki
理事長 天野珠子 事務局長 青木和美
Editors: Ph.D. Masako Ejima, Kazuko Hotta
編集委員 江島正子 堀田和子

〒112-0002
東京都文京区小石川2-17-41
富坂キリスト教センター2号館内
Tel. 03-5805-6786
Fax. 03-5805-6787

巻頭言 子どもの人格の尊厳と教師の使命

東京コース コース長 前之園 幸一郎



モンテッソーリの生涯は、子どもに対する強固で伝統的な偏見から子どもたちを解き放つ果てしない闘いの日々でした。彼女は、教育の名のもとに子どもたちの人間としての尊厳が日常的に蹂躪されている現実に厳しい批判の目を向けていました。当時の学校について「子どもたちはピンで留められた蝶々のようにそれぞれの座席や机に縛り付けられている。そして、その人格の内部から発せられる様々な自発的な表現が、まるで死人でもあるかのように抑えつけられている」と述べて、子どもたちが本来持っている人間としての自由が封じられていることを鋭く批判しました。

また、伝統的な学校における規律と訓練についても、モンテッソーリは子どもの立場からの批判を行っています。公立の学校では、一見、たしかに子どもたちは統制のとれた秩序の中でしっかり規律を身につけているように見えます。しかし、それは教師による沈黙と不動の姿勢の強制による規律であって、教育とは異なるものだとしてモンテッソーリは考えました。彼女によると、大人の強制によって「その子どもは人格が破壊されたのであって、規律が達成されたのではない」のです。モンテッソーリ教育においては、規律を含むすべての教育が、子どもの自由を土台にして出発します。したがって規律が自由にもとづくものだとするならば、その規律は活動的なものでなければならないこととなります。子どもが「自分自身の主人」となり、「自分自身をコントロールすることができる」ようになったとき、その子どもに初めて規律が確立されたと言えるのだとモンテッソーリは考えました。

さて、これは100年以上も以前になされたモンテッソーリの学校批判です。しかし、それが現代の日本の教育現場にそのまま当てはまることを過日の新聞報道(朝日新聞、2013.8.10)で知り驚きました。大阪市の桜宮高校での教師による生徒に対する暴力事件をきっかけに文部科学省は国公立の中小高校の体罰教員について全国調査を行いました。そして2012年度に体罰教員が全国に6721名いたとの結果が発表されました。その数字が厳密なものかどうかはさておき、まさに子どもの人間としての尊厳が損なわれている現実が今日の日本の学校に存在していることを示しています。

このような現実を見ますと、「たとえ幼子(おさなご)といえども、子どもは、すべての人間存在と同様に、かけがえのない独自の個性的な人格を持っている」との子ども観に立つモンテッソーリの思想は、現在もなお強調される必要があります。彼女は、子どもの人格の尊重のために教師は「ディレトリューチェ(導く人)」でなければならないという新しい理想的教師観を提示しました。知識を教えることよりも、子どもをじっくり観察して、子どもの内面のそれぞれに個性的な魂の諸活動と身体的な発達を導くのが教師の役割だということです。私たちは、今日、一人ひとりの子どもに対して「ディレトリューチェ(導く人)」としての使命を果たすように日本の幼児教育の現状から求められているように思われてなりません。

特別講義

2013年9月18日(水) 18:00～ 講師：森愛先生



前週の悪天候の影響で、一週間遅れとなりましたが、社会福祉法人仁寿福祉会特別養護老人ホーム星陽 園芸療法士 森愛先生をお迎えする事が出来ました。先生は、第45回日本モンテッソーリ大会にて「ルーメル奨励賞」を受賞なされ、その先生の講義を受けられることは何と幸福な事でしょう。

講義は、先生の研究課題でもある「モンテッソーリの園芸に対する考え方」について、モンテッソーリの著述から、国語教師でもあられる先生ならではの考察でひも解き、モンテッソーリ教育と園芸とのつながりを見出し、高齢者の自立支援の一環として、モンテッソーリ教育を論じられているのであります。それはとても興味深い内容であり、先生御自身が幼児期にモンテッソーリ教育で学ばれた基礎と、多感な高校生時代に沢山の自然と植物の出会いがあったからこそ経験が、モンテッソーリ教育の中での園芸の役割をひも解いている様に感じられました。

「教育は、発達を援助する事であり、園芸は人が植物を育てる事、関わる事によって自らの生命について思考する導きである。」という先生の言葉に、子供の将来を考えた時に幼児期の学びは生き続けるという責任の重さを一現場の指導者として感じる内容でした。

感覚教育担当講師 小川かおる

戸塚分室開設のお知らせ

特定非営利活動法人 東京モンテッソーリ教育研究所 理事長 天野珠子

東京コースも当研究所の活動の一環として、上智コースから移転して早8年目を迎え、多くのモンテッソーリアンを関連施設に送り出しております。また上智から継続して、「上智・東京コース同窓会」が毎年活発に活動していることは大変喜ばしいことです。しかし東京近辺では、近年様々なモンテッソーリ関係の研修箇所ができ、学びたい人には恵まれた環境ですが、コース側としては応募者が少しずつ減少傾向にあり苦慮しております。そのような折、横浜のルーテル関係の保育施設より、待機児解消の市の方針を受け関連保育園を増設し、多くの保育士を採用をしているが、モンテッソーリコースに通わせるには人数が多すぎ、毎年数人ずつしか派遣できず、何とか指導者を地元へ派遣してもらうことはできないかという話が、今年に入ってからイクソス会（ルーテル関係施設の法人）理事長の松川和照先生よりありました。

それから半年、研究所および付属教員養成コーススタッフでイクソス会側と双方に良かれと思われる方法を模索してまいりました。

まだ詳細まで決定しているとは言えませんが、研究所理事および実践スタッフとイクソス会側との調整による方針として平成26年度より主に土・日を利用しての戸塚分室（戸塚ルーテル保育園内）をスタートさせることになりました。当面はイクソス会のルーテル関連保育園保育士のみを対象といたしますが、いずれは神奈川方面施設の保育者にも広げられればと検討中です。また今年度すでに富坂と現地に於て聴講制度を利用して理論科目の講義が試験的にスタートしております。ただ我々スタッフの人数や負担に限界もあり、どこまで可能か実施してみなければわかりません。

昭和45年にわが国初のモンテッソーリ教員養成コースとして上智大学の中に発足し、連綿と続く伝統の灯を我々の代で消すことは出来ません。ぜひ皆さまの応援をよろしく願い申し上げ中間報告とさせていただきます。

モンテッソーリ教育への思い

社会福祉法人イクソス会 理事長 松川和照

「保育環境を整える」は、目の前にいる幼い子、神から託されているこのたましいに、保育者が出来るベストを尽くして、持てるものを提供する。保育者は、自分自身との真剣勝負だと感じて、今日に至っている。息の長い毎日であると思います。

保育環境は、保育内容の充実にあります。と言っても、園長は、子どもたちと毎日接し、直接保育に手をくさすことは難しく、保育方針を決定づけ、それが子どもの成長に反映するという当たり前の話が、なかなか難しく、悩みが多かった頃、梅田こどもの家での、モンテッソーリ幼児教育の話聞き及びました。

法的には年齢で区分しながらも、子どものことを大切に、一つひとつの充足感が、次のステップの道につながる事を教えられました。教師主導型より、子どもに寄り添う保育でした。当時、時折米国に旅行していましたが、本屋にモンテッソーリの本が育児書として積まれ、販売しており、何冊も購入してきて読みました。また、私には新幼児教育でしたが、目の前に育っている子どもを育てるのに、最善の道であると、上智に東京の職員を育成のために派遣し始めたのでした。

しかし、建物は一度建てると教育方針を変えても、簡単には変えることはできないものです。モンテッソーリ教育にふさわしい建て方は…。と言っても、海外のモンテッソーリ・スクールを見学しても、日本に導入し難く、結局自ら学び建てることとなりました。法規制、クラス構成、予算等を換算しながら、ゆったりしたスペース、クラスの壁にとらわれず、教具の収納スペースをも多く確保できる園舎。特にモンテッソーリ教育は人的環境と同時に、教具棚をはじめとする保育室の環境構成を考え、ひとりひとりの子どもの求めに応えるのでありたいと建てました。5年後、次々チャンスが巡ってきました。新しい園舎を建てる計画にも恵まれました。

数年使った園舎が「子どもの視点で見直したならば」と話し合い、建てた後再び、子どものことを支援する保育人材の育成へと、歩み始めようとしている昨今であります。

この時、横浜で新テーマ、即ち「子どものつくひとりのこころを受けとめる」の下に、モンテッソーリ大会（学会）が開催する機会が設けられた事は、よりベターなものを求めて、弱く小さな集団の私達保育者が、道を究める階段を登るようにと課せられた使命であると思っています。そこに、モンテッソーリの言う「平和」があるのでしょうか。

子供たちをわたしのところに来させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。 マルコ 10：14

第5回 実技研修会 報告

平成25年8月31日(土) 10:00～16:00

残暑の厳しい夏の終りの研修会は、富坂キリスト教センターの会議室で参加者は42名でした。今回は感覚担当で講師は堀田和子、千葉和恵、小川かおるの3人でした。

講義内容は「組み合わせ三角形」の基本提示と応用ピタゴラスの定理の紹介です。

学生の頃は苦手だった「組み合わせ三角形」も改めて提示を見ることが出来て深い学びとなりました。又よく理解できなかった「ピタゴラスの定理」の展開が今回はぴったりと良くわかりました。基本提示を改めて復習、確認できてよかったなどアンケートにも寄せられて嬉しく思いました。そして午後のはじめは堀田先生のご指導で「スティックボックス」幾何の教材の紹介がありました。これは以前堀田先生がアメリカで学ばれたもので6才～9才の子どもたちが対象で小学生クラスの教材です。長さのちがうスティックを組み合わせでできた七種の三角形の構成やその性質、図形カードと対応させ名称練習をしたり、さらに四角形、多角形、円形へと発展していき、幾何の図形、線、角度などを自分で作ってみることなど小学生の興味が広がっていく様子が想像できました。これもはじめての体験でとてもおもしろかったとの声が多かったです。

さあ、みんなでつくってみましょう！ 今度は参加者主体のお仕事の時間です。「組み合わせ三角形」の長方形の箱、正三角形の箱、正六角形の箱（大）、正六角形の箱（小）からそれぞれ構成される四辺形や正六角形を正誤表としてつくります。これがあれば子どもたちが、ひとりのできる！ことのお手伝いになりますね。きちんと切ってぴったりと貼る、向きを揃えて形づくりに皆さん夢中でとりくみました。約3時間かけて4組の正誤表ができあがりそれをパウチできちんとカバーして、すばらしいお土産になりました。教材づくりはとても好評ですぐに使えるので有難いです。又次回も楽しみにしていますと来年の再会を約束し閉会しました。

支援事業担当理事 千葉和恵

実習園紹介・うめだ「子供の家」の紹介 園長 廣岡和明

うめだ「子供の家」は、東京は足立区梅田にある私立の認可保育園です。東武スカイツリーライン梅島駅から徒歩7分の場所にあります。下町の情緒もありますが、近年は大型マンションの建設が相次ぎ、周囲の環境はだいぶ様変わりしました。保育園の隣は区立公園があり、春には桜が咲き、秋には銀杏の黄色に色付く様子等、四季の移り変わりを楽しめます。また図書館や区役所等の公共施設も近辺にあり、立地条件が良いため、近隣住民の方々には、長年住居を構えて、地域のお世話役をされている方もおられます。この地域では、2～3人のお子さんをお持ちのご家庭が多く、兄弟姉妹で保育園へ通われる方も多いです。卒園生も成人してお子さんを持ち、自身が受けたモンテッソーリ教育をぜひ我が子にも受けさせたいと、保護者としてうめだ「子供の家」にお子さんを預ける方も毎年数名おられ、職員も再会を喜んでいます。

当園は、1965年に、イエズス会のベトロ・ハイドリッヒ神父によって開園されました。キリスト教精神を基調とし、モンテッソーリ教育法に基づいた保育を行っています。また、同法人の姉妹施設うめだ・あけぼの学園（児童発達支援センター）との間で、年間を通じて組織的・日常的な交流保育（インテグレーション）を30年以上に渡り実施しています。園内の発達支援の必要な子どもについても、うめだ・あけぼの学園の専門職と連携し、必要な個別指導、グループ指導を定期的に受ける機会を設けています。

現在の定員は130名で、1歳児から5歳児までの子ども達を保育しています。保育時間は、7:30～19:30(含、延長保育1時間)です。クラスは1・2歳児と、3・4・5歳児の縦割り編成です。クラスの子供達は、異年齢の集団の中で、兄弟姉妹のようにお互いに影響し合い、助け合って生活しています。

自分で選んだ活動を個々のペースで充分満足するまで取り組めるよう、午前中は自己活動を中心としています。判断力を持ち、自己決定できる子どもに育ってほしいと願っています。

